

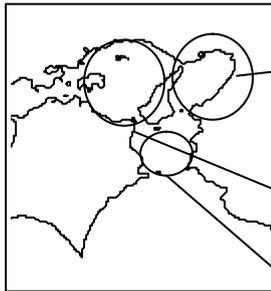
平成14年7月1日
水産庁漁場資源課
独立行政法人水産総合研究センター
瀬戸内海区水産研究所

瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報（7～8月）

- 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 -

今後の見通し（2002年7月～8月）

シラスは外海発生群に期待がもてず、内海発生群の増加に期待
大阪湾での小・中羽は2001年を上回る？



大阪湾ではシラスは2001年と同程度かやや上回る。小中羽は2001年を上回る

播磨灘では2001年と同程度かやや上回り平年並み。

紀伊水道では低調に推移し2001年、平年を下回る。

1. 本予報は水産庁のホームページ（<http://www.jfa.maff.go.jp/>）、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ（<http://abchan.job.affrc.go.jp/>）及び瀬戸内海区水産研究所のホームページ（<http://www.nnf.affrc.go.jp/>）に掲載されます。
2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下のとおりです。
水産庁増殖推進部漁場資源課沿岸資源班 担当：竹葉、狭間
住所：〒100-8907 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1
電話：03-3502-8111（内線7376） ファックス：03-3592-0759
電子メール：toru_hazama@nm.maff.go.jp
水産総合研究センター瀬戸内海区研究所企画連絡室
住所：〒739-0452 広島県佐伯郡大野町丸石2-17-5
電話：0829-55-3409 ファックス：0829-54-1216
電子メール：kiren@nnf.affrc.go.jp

参画機関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場
大阪府立水産試験場
兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター
岡山県水産試験場
香川県水産試験場
徳島県立農林水産総合技術センター 水産研究所
瀬戸内海区水産研究所 海区水産業研究部
瀬戸内海海洋環境部
水産庁 増殖推進部 漁場資源課

瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し(2002年7月～8月)

(1) シラス(本年夏季発生群)

紀伊水道では低調に推移し2001年、平年(過去12年)を下回る。

大阪湾では2001年と同程度かやや上回る。

播磨灘では2001年と同程度かやや上回り平年(過去15年)並みに推移する。

(2) 小・中羽(本年春・夏季発生群)

大阪湾では好漁であった2000年にはおよばないものの2001年を上回る。

2. 漁況の経過(2002年5月～2002年6月)および見通しについての説明

(1) シラス

2002年5月～2002年6月

紀伊水道東部(和歌山県側)では5月6日にややまとまった漁があったが、その後6月中旬まで低調に推移した。漁獲物は2cm未満の小型シラスが中心である。

紀伊水道西部(徳島県側)では5月、6月と不漁傾向が続いた。

紀伊水道北部(兵庫県側)では5月はほとんど漁獲がなく、6月も低調に推移した。

大阪湾では4月22日に漁が始まった。外海由来の群れが少ないため、漁期当初は漁が少なく漁場も限られていた。しかし、価格がよいため漁は続いた。6月にはいっても内海発生と思われる小型のシラスが混じりはじめ、漁は継続していたが、中旬頃より漁獲量が減少している。

播磨灘東部(兵庫県側)では5月31日に漁が始まり好漁である。

播磨灘南西部(香川県側)では6月1日に漁が始まった。開始当初は例年になく不漁であったが、6月13日頃から漁獲されはじめ、6月17日にはますますの漁があった。

播磨灘北西部(岡山県側)では昨年よりも5日早い5月15日から漁が始まった。5月は漁が少なく、6月も引き続き低水準であったが、小型のシラスが漁獲されはじめた。6月下旬に漁獲されたシラスの平均全長は14mm、昨年は25mmであった。

(2) 産卵量

紀伊水道内域では5月に過去10年で最多の卵が採集されている。

紀伊水道外域では不漁年の昨年を下まわっている。

大阪湾では6月に昨年を大きく上回る量の卵が採集されている。

播磨灘では6月に過去15年で最多の産卵量があった(岡山、香川、兵庫調査集計(図1))

(3) 今後の見通しの説明

シラス(本年夏季発生群、内海+外海由来)

紀伊水道では黒潮が潮岬沖で接岸傾向が続いているが、親魚量が少ないので外海発生群の漁は多くを望めない。また内海発生群の産卵量が多いが、紀伊水道東部(和歌山県側)では黒潮からの暖水波及が強すぎるため例年になく高水温状態が続く漁場環境は良くない。また、夏発生群の資源水準は経年的に低い水準が続いている。

大阪湾では外海発生群の補給路である紀伊水道和歌山県側での漁が低調に推移していることから判断して、外海発生群に多くを期待できない。一方、大阪湾内での卵の採集状況から、内海発生群は2001年を上回るものと考えられる。

内海発生群が漁の主体である播磨灘においては、播磨灘での産卵量水準が高く、水温が低いほど漁が良い傾向がある(図2)。2002年6月は産卵量が多いものが高水温である(図1)。

小・中羽（本年春・夏季発生群）

大阪湾では、本年春シラス漁で対象となった群れが成長し小・中羽となって漁の対象となる。本年春シラス漁の水準は好漁年の2000年には及ばないものの2001年を上回っていた。また、大阪湾のカタクチイワシの産卵水準からも2001年を上回る漁が期待できる。

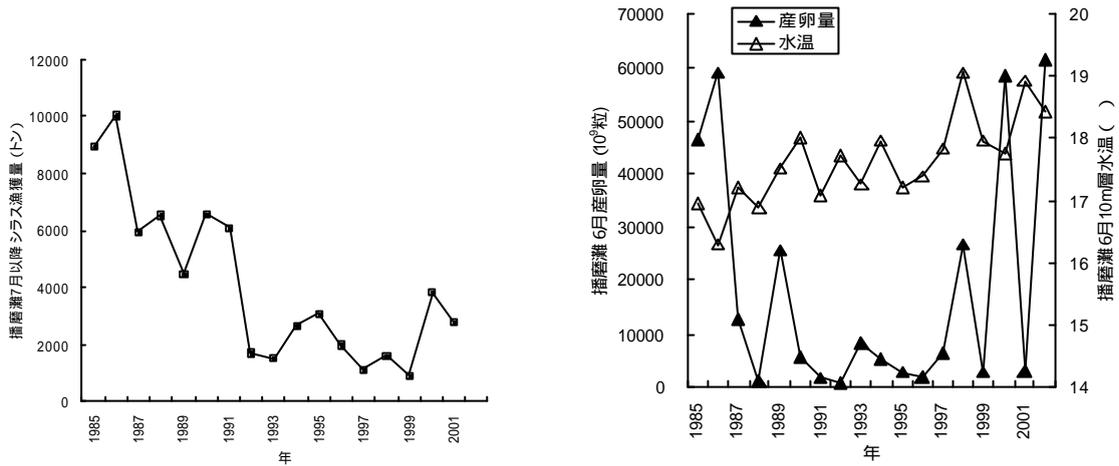


図1 播磨灘の7月以降のシラス漁獲量および6月の産卵量、10m層水温

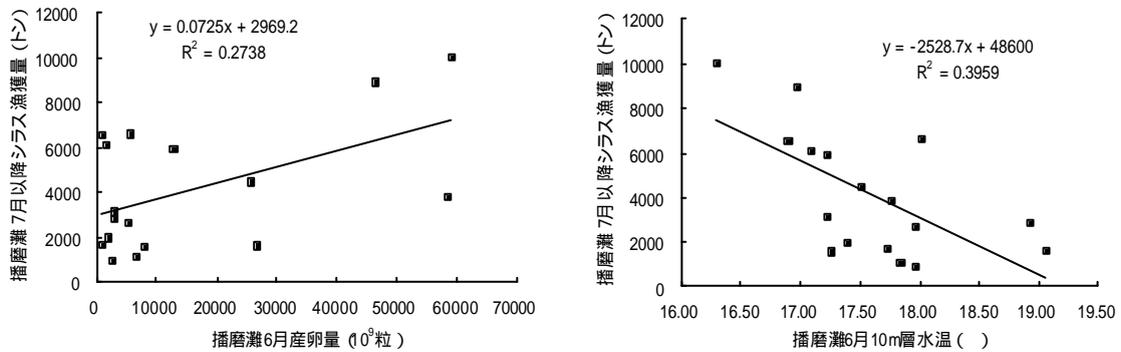


図2 播磨灘の7月以降のシラス漁獲量と6月の産卵量の関係および7月以降のシラス漁獲量と6月の10m層水温の関係